

(講座) 健康薬科学

(研究室) 衛生化学

(氏名) 原武 衛

(職名) 准教授

【研究テーマ】

1. 必須微量元素の体内動態と機能の解析に関する研究

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. H. Watanabe, M. Ono, M. Haratake, N. Kobashi, H. Saji, M. Nakayama: Synthesis and characterization of novel phenylindoles as potential probes for imaging of β -amyloid plaques in the brain, *Bioorg. Med. Chem.*, **18**, 4740-4746 (2010). (IF: 2.822)
2. S. Osei-Asante, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama: An ionic polymer bead-supported lipid system using naturally occurring phospholipids, *J. Bioact. Compat. Polym.*, **25**, 455-464 (2010). (IF: 2.800)
3. M. Ono, R. Ikeoka, H. Watanabe, H. Kimura, T. Fuchigami, M. Haratake, H. Saji, M. Nakayama: Synthesis and evaluation of novel chalcone derivatives with $^{99m}\text{Tc}/\text{Re}$ complexes as potential probes for detection of β -amyloid plaques, *ACS Chem. Neurosci.*, **1**, 598-607 (2010). (2010年創刊)
4. M. Ono, R. Ikeoka, H. Watanabe, H. Kimura, T. Fuchigami, M. Haratake, H. Saji, M. Nakayama: $^{99m}\text{Tc}/\text{Re}$ complexes based on flavone and aurone as SPECT probes for imaging cerebral β -amyloid plaques, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, **20**, 5743-5748 (2010). (IF: 2.650)
5. S. Osei-Asante, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama: One-step direct reconstitution of biomembranes onto cationic organic polymer bead supports, *J. Colloid Interface Sci.*, **351**, 96-101 (2010). (IF: 3.019)
6. T. Fuchigami, H. Yamaguchi, M. Ogawa, L. Biao, M. Nakayama, M. Haratake, Y. Magata: Synthesis and biological evaluation of radio-iodinated benzimidazoles as SPECT imaging agents for NR2B subtype of NMDA receptor, *Bioorg. Med. Chem.*, **18**, 7497-7506 (2010年). (IF: 2.822)
7. M. Ono, Y. Fuchi, T. Fuchigami, N. Kobashi, H. Kimura, M. Haratake, H. Saji, M. Nakayama: Novel benzofurans with ^{99m}Tc complexes as probes for imaging cerebral β -amyloid plaques using single photon emission computed tomography, *ACS Med. Chem. Lett.*, **1**, 443-447 (2010). (2010年創刊)

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. M. Hongoh, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama: Thiol-dependent selenium

transport in red blood cell membranes. 第9回国際セレン学会(9th International Symposium on Selenium in Biology and Medicine), 2010年5月(京都)

2. S. Yoshida, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama: Separation of selenium species in a processed Japanese anchovy. 第9回国際セレン学会(9th International Symposium on Selenium in Biology and Medicine), 2010年5月(京都)

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 渡邊 裕之, 小野 正博, 原武 衛, 中山 守雄: フェニルインドール誘導体の β アミロイドイメージングプローブとしての基礎的評価. 日本薬学会第130年会, 2010年3月(岡山)
2. 小橋 信弥, 祖母井 香織, 原武 衛, 淵上 剛志, 布施 隆行, 西田 教行, 中山 守雄: キナクリン誘導体のアミロイドイメージングプローブとしての評価. 日本薬学会第130年会, 2010年3月(岡山)
3. 坂野 綱則, 原武 衛, 松元 真哉, 淵上 剛志, 中山 守雄: グルタチオンペルオキシダーゼ様活性を有するヒト血清アルブミンの合成. 日本薬学会第130年会, 2010年3月(岡山)
4. 瀧口 徹, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: プリオン様タンパク質 Sup35 由来アミロイド形成ペプチドの凝集挙動の検討. 日本薬学会第130年会, 2010年3月(岡山)
5. 瀧 靖史, 池岡 諒一, 小野 正博, 淵上 剛志, 原武 衛, 中山 守雄: 老人斑アミロイドイメージング薬剤開発のための ^{99m}Tc 標識ベンゾフラン誘導体の合成と評価. 日本薬学会第130年会, 2010年3月(岡山)
6. 渡邊 裕之, 小野 正博, 真矢 啓史, 淵上 剛志, 原武 衛, 佐治 英郎, 中山 守雄: オーロンを基本骨格とするPET/SPECTハイブリッド型アミロイドイメージングプローブの開発. 第5回日本分子イメージング学会総会・学術集会, 2010年5月(滋賀)
7. M. Nakayama, R. Ikeoka, M. Ono, T. Fuchigami, M. Haratake: Synthesis and evaluation of novel chalcone derivatives with ^{99m}Tc complexes for detection of β -amyloid plaques. 第20回金属の関与する生物関連反応シンポジウム, 2010年6月(徳島)
8. 瀧口 徹, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: プリオン病における異常型タンパク質構造の伝播に関する検討. フォーラム2010:衛生薬学・環境トキシコロジー, 2010年9月(東京)
9. 万代 恵実, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: あご(トビウオ)中セレン含有成分の分析. フォーラム2010:衛生薬学・環境トキシコロジー, 2010年9月(東京)
10. 北郷 真史, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: Anion exchanger 1のチオールが媒介するセレンの赤血球膜輸送. 第2回メタロミクス研究フォーラム, 2010年11月(京都)
11. 吉田 さくら, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: カタクチイワシ由来セレン含有物質の分離分析. 第2回メタロミクス研究フォーラム, 2010年11月(京都)
12. 坂野 綱則, 淵上 剛志, 原武 衛, 中山 守雄: アルブミンへのセレノシステインの導入によるグルタチオンペルオキシダーゼ擬似体の合成.

- 第2回メタロミクス研究フォーラム, 2010年11月(京都)
13. 小川 綾華, 渡邊 裕之, 小野 正博, 淵上 剛志, 原武 衛, 中山 守雄: 老人斑アミロイドイメージングプローブとしてのスチリルクロモン誘導体の評価.
第50回日本核医学会学術総会, 2010年11月(埼玉)
 14. 小橋 信弥, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: ^{125}I 標識キナクリン及び関連化合物のアミロイドイメージングプローブとしての評価. 第50回日本核医学会学術総会,
2010年11月(埼玉)
 15. 淵上 剛志, 原武 衛, 間賀田 泰寛, 原田平 輝志, 中山 守雄: Glycine transporter 1の機能イメージングを目的とした ^{125}I 標識 SSR-504734 誘導体の開発.
第50回日本核医学会学術総会, 2010年11月(埼玉)
 16. 渡邊 裕之, 小野 正博, 木村 寛之, 淵上 剛志, 原武 衛, 佐治 英郎, 中山 守雄: オーロンを基本骨格とした β アミロイドイメージングプローブの開発.
第50回日本核医学会学術総会, 2010年11月(埼玉)
 17. 淵上 剛志, 原武 衛, 間賀田 泰寛, 原田平 輝志, 中山 守雄: 脳内 Glycine transporter 1の画像化を目的とした ^{125}I 標識 *N*-[Phenyl(piperidin-2-yl)methyl] benzamide 誘導体の開発. 第10回放射性医薬品・画像診断薬研究会, 2010年12月(京都)
 18. 瀧口 徹, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: 酵母プリオンタンパク質断片のアミロイド形成とその伝播に関する検討. 第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)
 19. 坂野 綱則, 原武 衛, 淵上 剛志, 中山 守雄: アルブミンへのセレノシステインの導入によるグルタチオンペルオキシダーゼ様活性の創製.
第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)
 20. 小橋 信弥, 祖母井 香織, 原武 衛, 淵上 剛志, 布施 隆行, 新 竜一郎, 西田 教行, 中山 守雄: プリオン病の画像診断を目的とした ^{125}I 標識キナクリン及び関連化合物の開発. 第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)
 21. 淵上 剛志, 原武 衛, 間賀田 泰寛, 原田平 輝志, 中山 守雄: 脳内 glycine transporter 1のSPECTイメージングを目的とした放射性ヨウ素標識 SSR-504734 誘導体の開発.
第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	50 編	(邦文)	2 編
総説 (欧文)	2 編	(邦文)	2 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	1 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	3 編
特許	13 件		